

Jリーグの現状と展望
—イレブンミリオンプロジェクトに着目して—
Current Status and Prospects of J-league
-Focusing on “Eleven Million Project”-

1K07B225-2

指導教員 主査 中村好男先生

山本裕也

副査 岡浩一朗先生

【第一章 緒言】

2010年日本代表は南アフリカワールドカップでグループリーグを突破した。2002年日韓大会以来の快挙にサッカー日本代表は日本国民の注目の的となった。このワールドカップから約半年後、12月3日は2018年、2022年大会の開催地が発表される日であった。日本は2022年の開催地に立候補していた。結局最終候補地にまで残り私はあの日本中が盛り上がったワールドカップが日本で開催されるのではという期待に満ち溢れていた。テレビの前で開催地発表の瞬間を待っていたが、放送時間の問題からか発表の瞬間が放送されることはなかった。大会中には57.3%(日本—パラグアイ戦)の高視聴率を獲得し国民の関心も高いものであった。それほど関心の高い大会がもしかしたら日本で開催されるかもしれない、その決定の瞬間がテレビで放送されなかったことは非常に残念に思えた。Jリーグは100年構想の中に“イレブンミリオンプロジェクト”を盛り込んでいる。これは2010年に観客動員数1100万人を目指すものであったが、2010年の観客動員数は864万5762人となりこのプロジェクトは失敗に終わってしまった。ワールドカップ中にあれだけ盛り上がりを見せた日本のサッカー界がこの目標を達成できなかったのは非常に残念である。

本研究はイレブンミリオンプロジェクトがなぜ達成されなかったのか。またこれからJリーグの観客動員数を増加させるためには。この2点をJリーグの現状と観客動員数がJリーグよりも多いブンデスリーガ(ドイツ)、プレミアリーグ(イングランド)、リーガエスパニョーラ(スペイン)と比較、研究していきたいと思う。

【第二章 Jリーグ】

Jリーグが生まれたのは1993年だった。初年度の総入場者数は53345人で今と比べると寂しい数字ではある。しかしながら現在と比べると大きなキャパシティのスタジアムがなかったためこの数字は妥当といえるだろう。Jリーグバブルと言われるほどJリーグの人気は高まりをみせた。しかしながら平成不況の影響も

あり徐々に人気は低迷してしまう。その人気低迷を打ち破ったのが2002年に日韓共同で開催されたワールドカップだろう。2002年に初めて観客数の総計が600万人台を突破しそれ以降増加の傾向を見せた。日韓ワールドカップがJリーグに与えた影響はとて大きなものであった。

【第三章 浦和レッドダイヤモンズ】

浦和レッズはJリーグ創設時から存在するいわゆるオリジナル10とされているクラブの1つである。1993年のJリーグ開幕時にはJリーグのお荷物とも呼ばれていて財政状況も現在とは比べ物にはならなかったという。J2降格という苦しい出来事もあったがそれを乗り越え浦和レッズは2007年にアジアチャンピオンにまで上り詰めた。フロントと監督、選手そしてサポーターが一枚岩となって共に闘っていたことが優勝の原動力となったのだった。しかし近年、成績不振と観客数の減少から経営が悪化した。

【第四章 まとめ・考察】

日本はヨーロッパ諸国に比べサッカーの歴史が非常に浅い。この研究を通し改めてそのことを感じた。サッカーはヨーロッパの人々の日常生活の中に溶け込んでいる。このことに特に理由はなく生まれた時からそうだったからであろう。今Jリーグは100年構想を掲げ「地域に根ざしたスポーツクラブ」を核として活動をしている。この活動が継続されれば人々の生活の中にスポーツ、そしてサッカーが身近なものになる。そしてその結果としてJリーグは発展していくだろう。